

NISA向けファンドは2015年12月に過去最大の純流入！
季節性と郵政3社株も影響。2016年1月はさらに期待大。
人気の投資先は12月がグローバル株、2015年1年間で日本株。

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

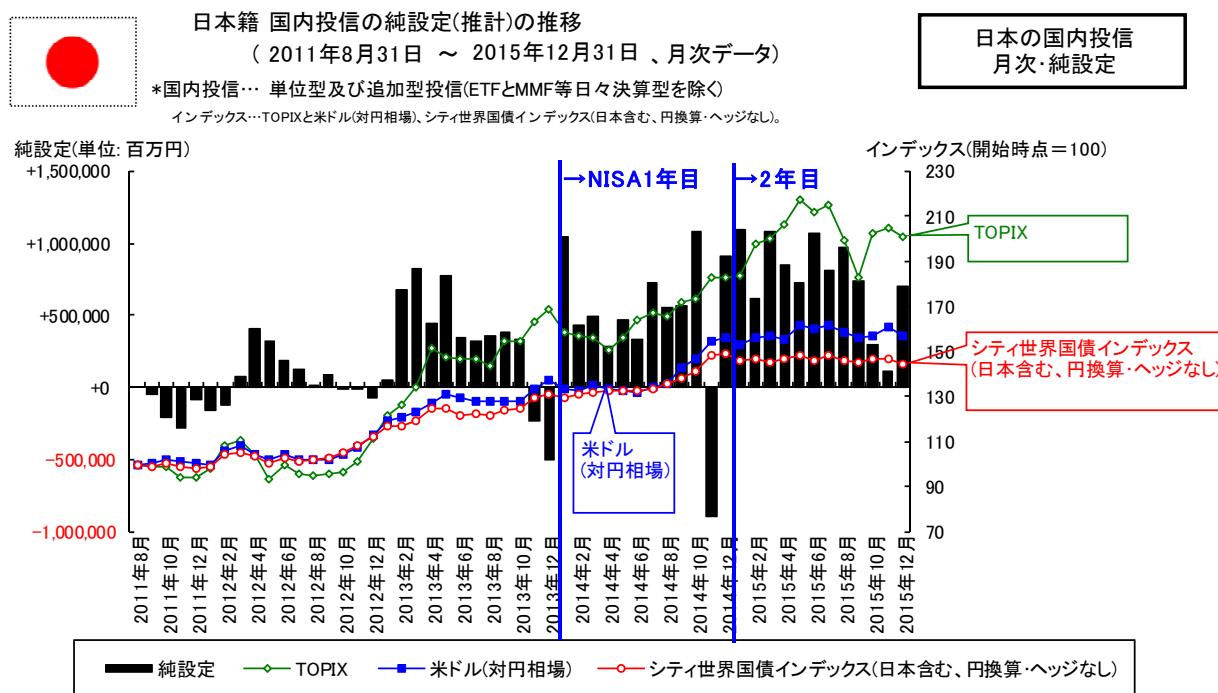
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

1月から成人向けNISAが年120万円に拡大、4月からジュニアNISA年80万円開始

2016年からNISA(少額投資非課税制度)が新しくなる。1月からは成人向けNISAの年間非課税投資額が年120万円に上げられ(*2014年と2015年は年100万円)、4月からは未成年者向けのジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の年80万円が始まる。ジュニアNISAが始まる事で「人が生まれてからの一生を通じて非課税制度を活用したシームレスな資産形成を行うことが可能になる」(2015年12月16日付日本証券業協会・稲野会長～URLは後述[参考ホームページ])とされ、今後の拡大期待も大きい。特にジュニアNISAをきっかけに、口座開設を増やす投資家もいよう。ただ、その場合、NISA口座を既に開設しているのに投資を行っていない理由として20～40代の若年層に最も回答の多かった「どの商品に投資するか迷っているから」(52.0%)がある(2015年10月1日付金融庁「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書～URLは後述[参考ホームページ])。「株の銘柄も投資信託も多い。…(略)…。投資は自己責任というイメージがあるので、きちんと自力で見定めてから購入したいが比較対象があまりにも多すぎる。」と言う声もあったと言う。そこで今回はその参考として、これまでNISA口座でどの様なものに投資されてきたかを見る。

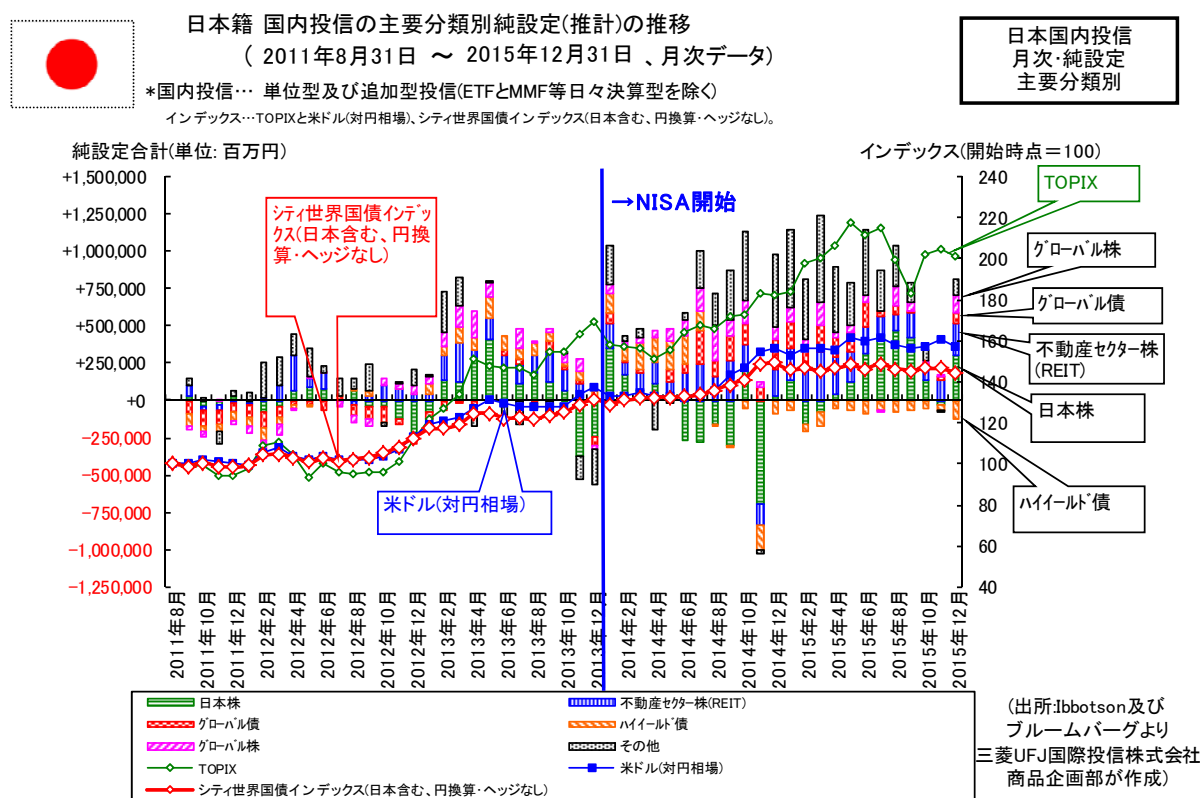
既存投資家の人気は直近2015年12月が日本株で、2015年1年間ではREIT

NISAで何が買われたかを見るにあたり、当コラムでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、前者の既存投資家は投信全体の動向で代替、後者の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替している。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は、2015年12月に+7000億円弱と、8月のボラタイルな相場展開で足元落ち込んでいたが、12月は前年同様、投資が膨らんだ。年間で見ると2015年(1～12月)は+9兆876億円と、前年2014年(1～12月)の+6兆円強から5割増(+51.3%)となった。



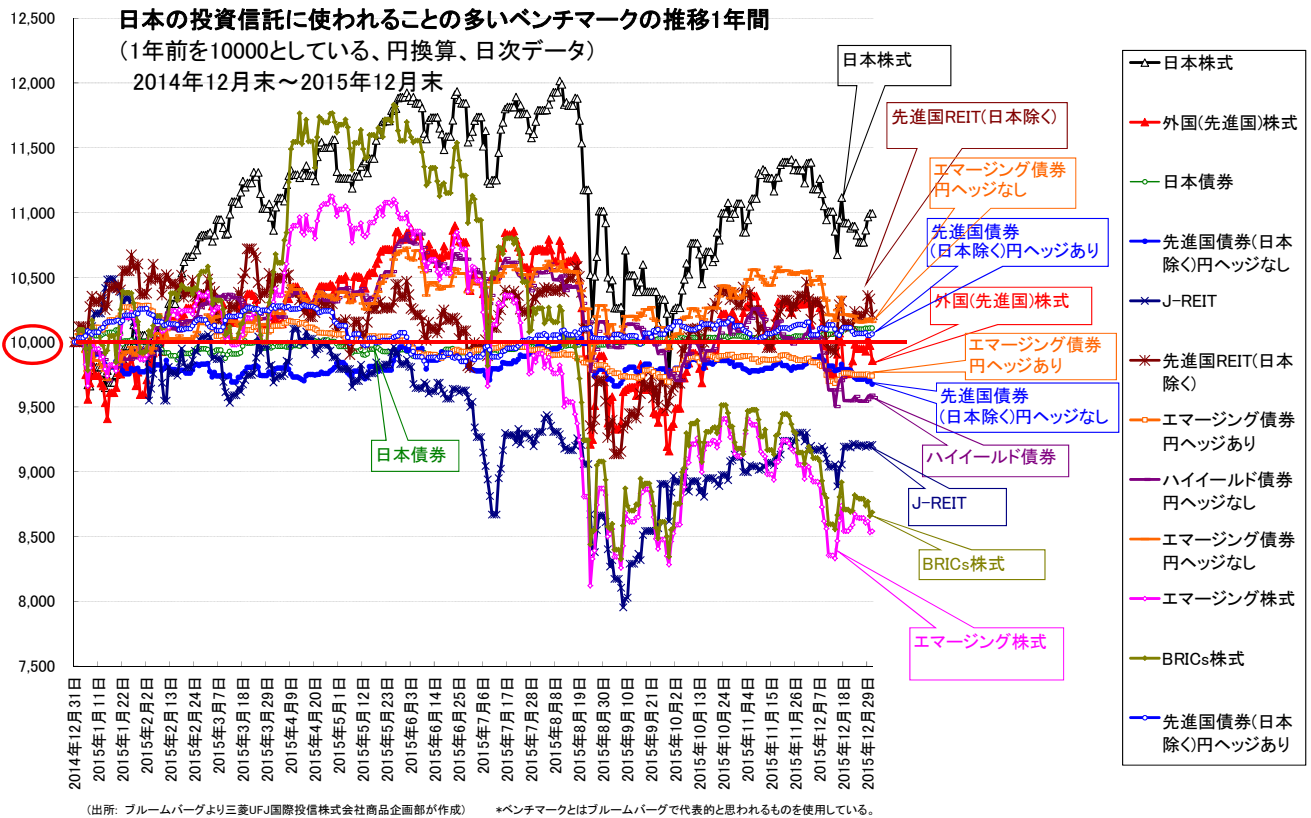
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

投資対象(主要分類)別で見よう。下記グラフに示される通り、2015年12月に最も純設定の大きかったのは、日本株、グローバル株、不動産セクター株(REIT)、次いでグローバル債、その他オルタナティブである(*主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類～その他オルタナティブはその他に含まれる)。12月に最も純流入の大きかった日本株は、2015年の1年間(1～12月)では2.2兆円弱の純流入と前年2014年は6000億円強の純流出だったのだが、2015年は一番人気の不動産セクター株(REIT)に次ぐほどの人気だった。REITは、2015年の1年間(1～12月)に2.3兆円弱の純流入と、前年2014年に引き続き、純流入最大で、年間純流入額は3割強も増加した。2014年の年間純流入額は1.7兆円だった。

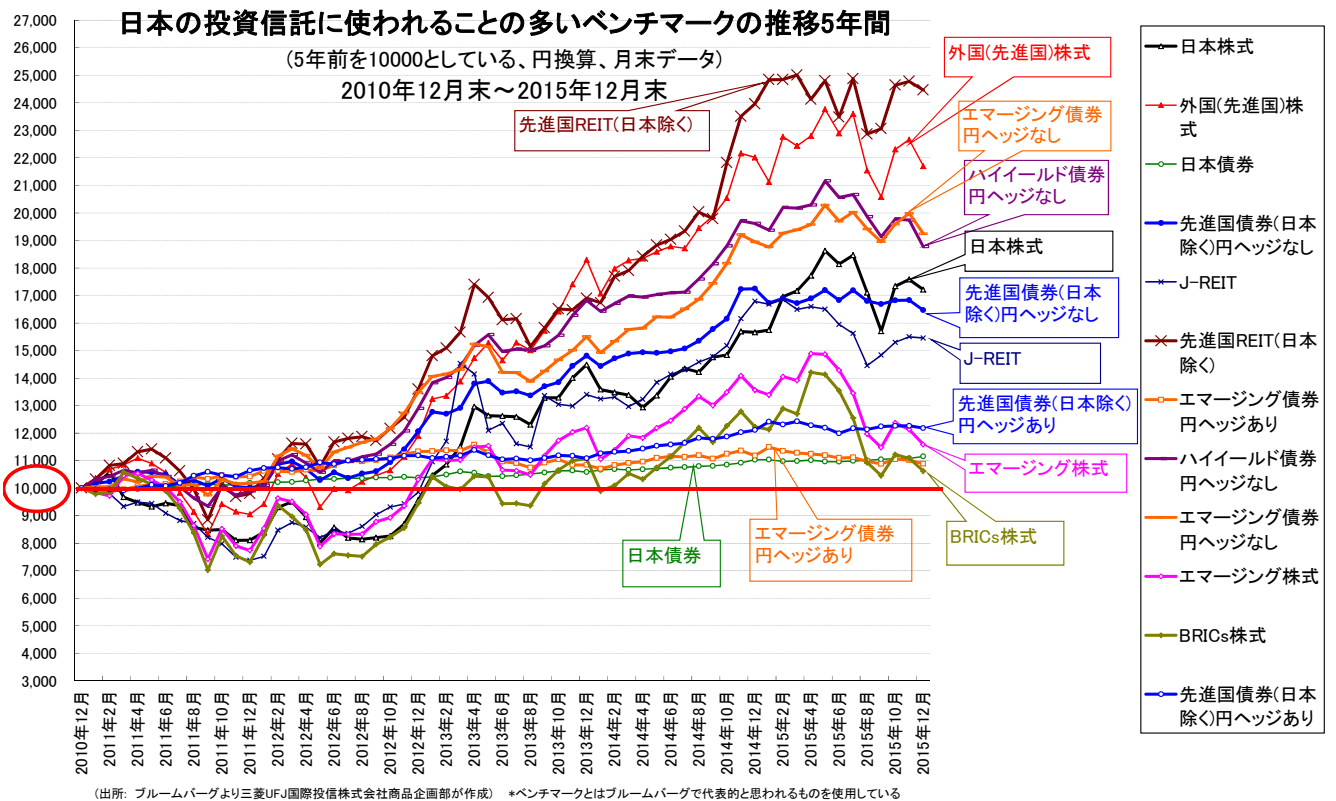


純設定とパフォーマンスの関係はどうか? 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁の通り、1年のパフォーマンスで好い順に、日本株式、先進国 REIT、エマージング債券、国内債券、先進国債券となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。

日本株は8月に急落したものの、10月に1割超の上昇となり、年間では1割弱の上昇となった。また、REITについては、長期相対パフォーマンスの良さに加え、相場が下がると、目先は分配金利回りが上がる為、その事も人気の要因の一つになっているのかもしれない。

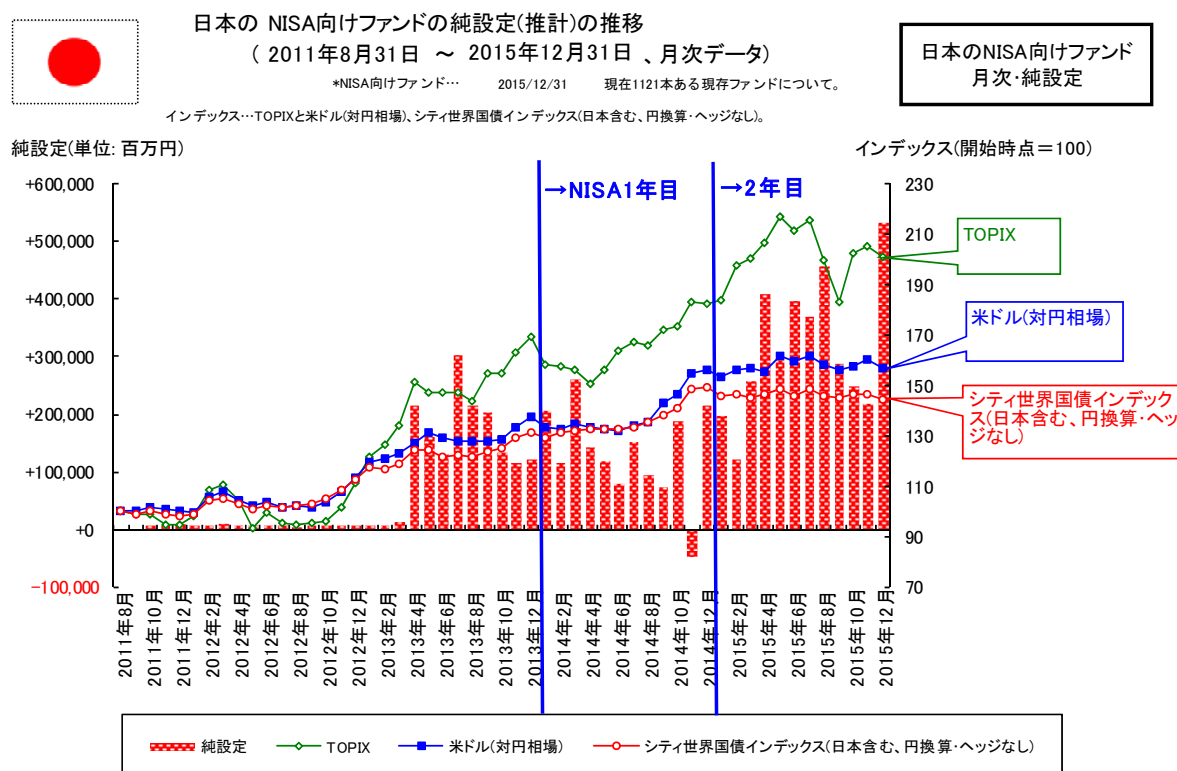


下記グラフは5年のパフォーマンスで、好い順に、先進国 REIT、先進国株式、エマーシング債券、ハイイールド債券、日本株式となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



NISA 向けファンドは 2015 年 12 月に過去最大の純流入!
季節性と郵政 3 社株も影響。 2016 年 1 月はさらに期待大。
人気の投資先は 12 月がグローバル株、2015 年 1 年間で日本株。

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見ると、下記グラフの通り、最新 2015 年 12 月は+5300 億円強と NISA 開始(2014 年 1 月)以来で過去最大で、2014 年 12 月から 12 カ月連続の資金純流入となった(*NISA 向けファンド…後述※1 参照)。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2015 年 12 月 31 日時点で 1121 本となった。

NISA 向けファンドの純設定が 2015 年 12 月に過去最大となった理由に NISA の季節性があると思われる(*1 月と 12 月に買付額が膨らむ~2015 年 6 月 22 日付日本版ISAの道 その 106 参照~後述[参考ホームページ])。また、後述する通り 2015 年 11 月 4 日に上場した日本郵政グループ 3 社(日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険)株(以下、郵政 3 社株)上場も影響していそうだ(郵政 3 社株については後述※2 参照)。



郵政3社株については、10月と11月において投信に向かうはずだった資金がシフトした可能性もあるが、12月は郵政3社株をきっかけにNISA口座の開設をした人が、余った非課税枠で駆け込み的に投信を買った可能性がある。

日本郵政グループ3社株は取引単位100株なので2015年12月末現在で見て日本郵政(6178)が1865円×100株=18万6500円、ゆうちょ銀行(7182)が1750円×100株=17万5000円、かんぽ生命保険(7181)が3115円×100株=31万1500円。どれを買っても、NISA非課税枠はかなり余り、仮に郵政3社株全てを買っても67万3000円(手数料等考慮せず)と、100万円なら30万円近く、120万円なら50万円近くが余る計算だ(*2016年1月から120万円に拡大した新しい非課税枠)。1月は12月と同様、季節性があり、元々純流入が期待出来る月である。2016年1月はかなりの純流入が期待出来そうである。

※2: NISAを通じた日本郵政グループ3社株の買付額は主要証券10社だけで約920億円、買付額で44.7%…2015年11月4日に日本郵政グループ3社(日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険)株の上場があった。3社合計の売り出し規模は1兆4362億円と、1998年10月22日のNTTドコモ上場に匹敵する大型上場で、1987年2月9日のNTT上場以来の民営化となる。2015年10月15日には同3社を主な投資対象とする投信が約56億円を集め、その後も資金を集め、現在70億円強となっている。日本郵政グループ3社株の上場は投信、そしてNISAに影響を与えている。

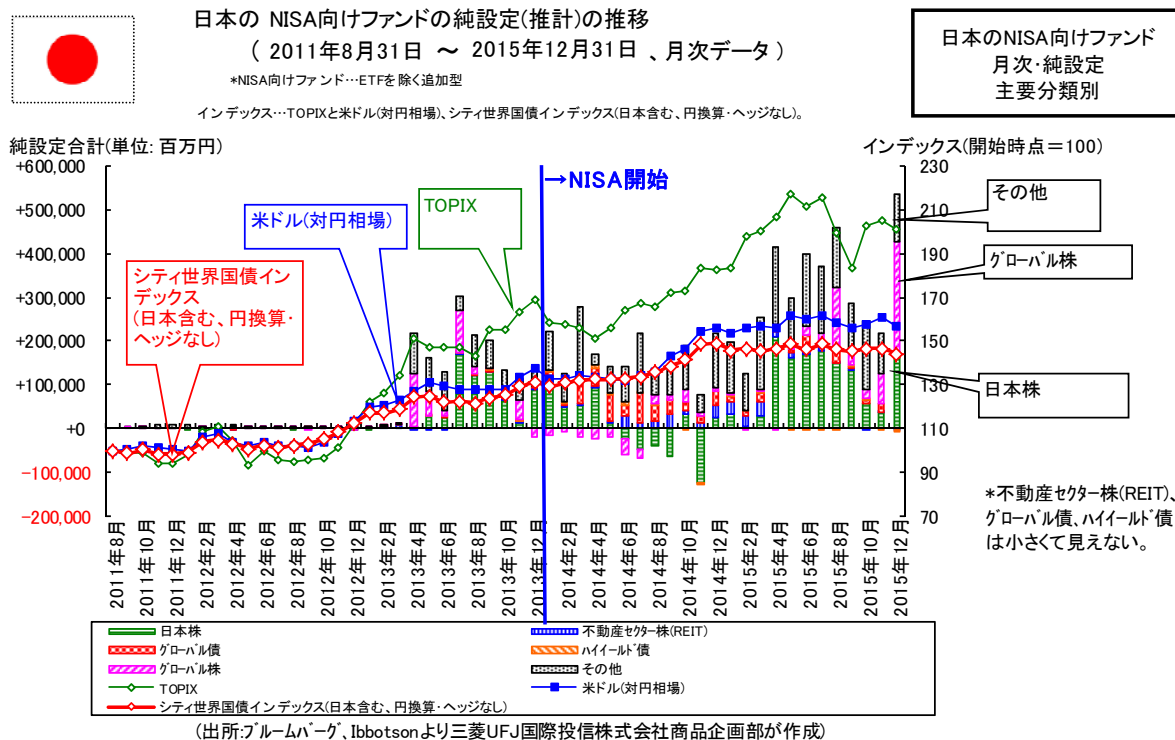
2015年12月16日付日本経済新聞が大手証券5社とネット証券5社に聞き取り調査した結果を報じており、それによると、NISAを通じた郵政3社株の買い付け額は2015年11月末までに約920億円だった(URLは後述[参考ホームページ])。ただ、日本証券業協会によると、2015年12月16日に発表した主要証券10社におけるNISA口座全体の買付額は11月に753億円と、先の920億円を下回っている。これは「一部の証券会社では、新規上場時の購入分は顧客が資金を払い込んだ10月分になるため」(上述の日本経済新聞)という。日本証券業協会発表の主要10証券会社(ネット5社含む)の10月、11月のNISA買付額は、2058億円(10月1305億円、11月753億円)なので、日本郵政グループ3社株の買付額920億円は4割強(44.7%)を占めることとなる。

一方、日本証券業協会はNISA勘定設定口座数の増加が2015年10月に8月や9月に比べて伸びている事を指摘、11月の上場・買付に備えた新規投資家もいた可能性を示唆している。詳細は(2015年12月7日付日本版ISAの道その123参照~URLは後述[参考ホームページ])。

NISA向けファンドの純設定を年間で見ると、NISA導入2年目となる2015年(1~12月)の純設定は+3.7兆円強、月平均+3140億円と、前年2014年(1~12月)の+1.6兆円弱、月平均+1316億円の2.4倍(+138.5%)となり、単月でも、2015年は2014年の月平均(+1316億円)に対して2月を除く全ての月で上回った。前述した通り、既存投資家を示す投信全体では2015年の純設定は前年比5割増(+51.3%)だったので、NISA向けファンドが2.4倍(+138.5%)と、2015年は新規投資家において投資がより拡大したことが推察される。

NISA開始以来で過去最大となった新規投資家と思われる投信の2015年12月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、12月の純流入1位は前月に引き続きグローバル株、2位は日本株(前月も2位)、3位は「その他オルタナティブ」(同5位)、4位はアセットアロケーション柔軟型(同4位)、5位はアセットアロケーション積極型(同27位)となっている(アセットアロケーション及び「その他オルタナティブ」は、下記グラフで「その他」に含まれる)。

NISA 向けファンドの純設定を主要分類別に年間で見ると、前年 2014 年(1～12 月)は、グローバル債が 1 位、次いでアセットアロケーション柔軟型、アセットアロケーション積極型の純設定が大きかったが、2015 年の 1 年間(1～12 月)では、日本株が人気を博し、次いでグローバル株、アセットアロケーション柔軟型、その他オルタナティブなどの純設定が大きかった。



ネット証券での人気は REIT・日本株・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2016年1月6日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2015年12月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位はグローバル株ファンドとなっている。前月11月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)は、1・4位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2015年12月28日から12月30日までは、1・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の11月24日から11月27日までは、1・3位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

○カブドットコム証券は2015年12月のNISA口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、3・5位は日本株ファンド、4位はグローバル株ファンド。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年12月28日から2016年1月1日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド、5位はグローバル株ファンド。約1カ月前の11月23日から11月27日までのNISAの投資信託・買付金額の1・4位は日本株ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、3・5位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年12月28日から2016年1月1日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・5位は日本株ファンド。約1カ月前の2015年11月23日から11月27日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・4位は日本株ファンド、3・5位はグローバル株ファンドだった。

<NISA積立～2016年1月6日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015年12月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は新興国株ファンドとなっている(*1・2・5位はインデックスファンド)。

○カブドットコム証券では、2015年12月のNISA口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1位はアセットアロケーションファンド、2・3・4位はグローバル株ファンド、5位は日本株ファンド(*1～5位すべてインデックスファンド)となっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015年12月28日から2016年1月1日までのNISA口座では、1・2・4・5位は日本株ファンド、3位はグローバル株ファンドとなっている(*4位を除きすべてインデックスファンド)。

ネット証券では不動産セクター(REIT)ファンドが再び人気となり、引き続き日本株の人気も強く、次いでグローバル株、アセットアロケーションファンドが人気である。上述したネット証券のものは、買付のみであり、先述した既存投資家・新規投資家では解約分も含めた純設定で見ているが、いずれも日本株が上位にきており、解約も少ない事がうかがえる。

以上、NISAで何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、ネット証券の順で見えてきた。2015年は日本株とグローバル株が人気。その他、既存投資家とネット証券ではREIT、新規投資家やネット証券ではアセットアロケーションも人気だった。NISAの口座開設者でも抱える問題は「投資の時期を見極めている」や「何に投資をするか迷っている」(2015年10月16日付日本証券業協会・個人投資家の証券投資に関する意識調査報告書「口座での金融商品の非購入理由」～URLは後述[参考ホームページ])と言う。以上により少しでも、「何に投資をするか迷っている」について参考になる事を期待している。もう一つ、「投資の時期を見極めている」については次回、取り上げる。

以 上

[参考ホームページ]

2015年12月16日付日本証券業協会・稲野会長…

「<http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/files/151216youshi.pdf>」

2015年10月1日付金融庁「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書…「<http://www.fsa.go.jp/common/about/research/20151001-1.html>」

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって？」…

「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」

2015年6月22日付日本版ISAの道 その106…「5月のNISAは前年の1.6倍ペース! 積立投資も寄与し、NISAが2015年末に7.3~7.5兆円、2020年までに25兆円と言う政府目標に続く「道」を順調に進む事を期待!!」…「<https://www.am-mufg.jp/text/kam150622.pdf>」

2015年12月16日付日本経済新聞電子版「NISA経由の買い付け、郵政3社株が4割強に 証券10社」…

「<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO95179420V11C15A2DTA000/>」

2015年12月7日付日本版ISAの道 その123「NISAを通じた郵政3社株買付は大手証券5社で820億円!郵政上場のあった11月のNISAでの人気は既存投資家がREITやグローバル株、新規投資家がグローバル株や日本株!!」…「<https://www.am-mufg.jp/text/kam150622.pdf>」

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisek.co.jp/>」

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」

カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…

「http://kabu.com/item/NISA/ranking/fund_generation.html」

2015年10月16日付日本証券業協会・個人投資家の証券投資に関する意識調査報告書…

「http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/ko.jn_isiki/files/151016ko.jinishiki_honbun.pdf」

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。